MY HERO ACADEMIA FANBOOK#57

IZUKU × KATSUKI

MY HERO ACADEMIA FANBOOK#57

IZUKU × KATSUKI

ノットイコール
NOT≠EQAL

・全面戦争前、黒鞭調練をしてる頃の出勝
（29巻掲載の頃）
・両片想いからのハッピーエンド

人生は
恋より友情の方が難しい
なんて本当だろうか

そのどちらか
もしくは両方
いや

君の全てが
欲しいとしたら

あの日の僕達は
多分どうかしていた

……ッ

ン……ッ

ガタッ

訓練後、皆が去った
体育館の隅の部屋で
僕達は一線を越えた

ン…

…ッ!!

ビクッ

グッ

ズプ。

ン…ッ

ふー

ビクッ

ぎゅ…

ふー…

…ッ

…ンッ

ビクッ

ビクッ

ズプッ

はっ

全ては僕の
一方的な行為だ

ズ…!

かっちゃん

クイッ

イキそう？

ビクッ

ッ

グポッ

ビクッ

ビクッ

…ッ

ゴロン‥

ッ

ぶーッ

ビクッ

ふゥ

ビクッ

…いいよ

ズ‥

ねえ

かっちゃん

ズチュッ

…ッ

ッ!!

ビクッ

ズチュッ

はーッ
ドロ
ニ
はーッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
かっちゃん…
はぁ
はぁ…
はっ
はー
あの日はいつも通り
の1日だった
何故か文句もいわず
僕の訓練に
付き合ってくれて
何故か、僕の事を
体育館の隅から
哀しそうな目で
見つめていた君

そんな君との
ごく普通の一日

空中だと
黒鞭使って
「掴む」感覚って
まだ難しくて…

かっちゃんはさ
爆破の大きさや精度の
コントロールって
どう感覚掴んでるの？

あほか
んなの勘だろ
勘！

喧嘩もしてないし
僕を変に期待させる
ような行動も、
君はしてなかった

んー君は簡単に
言うけどさぁ

手とは違うし
こういう動きって
勘で理解するの
難しいんだって！

例えば、
…こう！

グイッ

パ
ン
これがきっかけ

気が付いたらキスしてかっちゃんの身体まさぐって服を脱がして犯してた
はっ
はぁ
ビクッ
はっ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ねえかっちゃん
はッ
はぁ
ちゅ
場所…変えたいんだけど
はぁ

ちゅっ
ちゅっ
君はほんの少し嫌そうな顔したけど
ちゅッちゅッ
意外と素直に来たな…
グッ
…ッ！
ッ…
ビクッ
ズプッ
ッ!!
ッ!!
ビクッ
ズプッ
ビクッ
ビクッ
最初から最後まで、
僕がかっちゃんに触れる意味や
僕達がセックスしてる理由について
何も聞かなかったし、何も言わなかった

…ッ

ビクッ

ふ

ふ

ン…ッ

ビクッ

ビクッ

ちょっと触れたら
中に欲しがって
すぐイクし
べそべそ泣いて
何も言って
くれない癖に

ギッ

ギッ

ギッ

喘ぎ声だけは
出すんだよな

はッ

…ッ!!

…い…

ビクッ

僕の事、デクとすら
呼んでくれないまま

ギッ

は…

ず…くッ

明け方
君は帰って行った

もう朝か…
どんな顔して
かっちゃんに
会えばいいんだ？
バッ
いやもう
出来るか？
訓練マジで！
どうした爆豪
元気ねえなあ！
朝飯食ったか？
ガシッ
うっせえなあ
普通に食ったわ

一方的にあんな事して…
僕には、かっちゃんを
自分の物みたいに考える
権利も、嫉妬する権利も
ないのに

デク君
どうしたん？

なー何でもない
ちょっと考え事
してた…ごめん

麗日さん僕
ちょっと図書室
行って来るね

訓練に役立ち
そうな本があるのを
思い出したから

…「空中での
姿勢制御解説」

「ロボット遠隔操作技術と
個性コントロール」

課題は山程あるんだ
冷静にならないと…

でも…

この手が君の肌に触れた瞬間
自分でも驚く位、君に飢えた

いつの頃からか…
僕は君の身体を
知っている
つもりになっていた

鍛え上げた筋肉
滑らかな肌

形状・質感
記憶に叩き込んで
見慣れたといっても
いい位

でも視覚と記憶に比べ
触覚・粘膜の直接的な感覚は
理性の全てを吹っ飛ばす位
かっちゃんを感じる事が出来て
…気がついた

僕…
かっちゃんの
身体に
ちゃんと触れるの
はじめてなんだ
はっ
はっ
生々しさに
自分の血が湧いた
君の都合なんて考えもせず
身体を貪るのに夢中だった
ガシッ
止める事なんて
出来なかった

ズル
ズル
バキン
かっちゃん?!
どうして僕が
ここにいるって…
へ?電気
なんで…
?!

プハ

…てめえ
どういうつもりだ

ちゅッ

俺をどうしたくて
あんな事やった

ちゅっ

君は…
どう思ってるの

ガッ

俺の事は
どうでもいい

てめえの
考えを言えや

一方的に
やったん
てめえだろ

へ？

君が、僕の
意見を聞く？

天変地異でも
おこるのか？

じ、じゃあ、君は僕が君をどう思っていたかを知りたくて

それによって何かを決めてもいいって思ってるって事だよね

…むしろ昨日の事はそう嫌じゃなかったって事？

面倒くせぇ言い回しすんな！

いいから言えや

僕…は

僕は君が、かっちゃんが…好きで

あんな事したってのは、つまり…何というか

まず、僕は君とちゃんと友達になって…

トンッ

はあ？

ざけんなてめえ友達だと？

いや！だから…

ん？
ガッ
かっちゃ…
ズズズ
ちゅッ
ちゅッ
んん…
ン…
グイッ
…え
何？
ハッ
勃ってんじゃねェか
てめえ友達相手に勃つんかよ
それとも俺をセフレとでも言いたいんか？

ブッ

グイッ

プッ

かっちゃん？

待って！
そうじゃないって…

！

黙って

触れや

かっちゃんの
肌体温…

この感触

目を閉じても
わかる
熱…粘膜

途端に
服が距離が
思考が邪魔で
仕方ない

もっと深い
君の感触を
もっと

ン…

…ッ

ン…ん

パンッ

ズッ

ビクッ

ちゅッ

ちゅッ

ふ…

ふ…

ヌチッ

ヌチッ

パンッ

ズチュッ

あ…

アッ

ズチュッ

ビクッ

出…せや

デク…ッ

ズッ

ビクッ

ズッ

あ

はっ

は…

ア…ッ

かっちゃ…

ズッ

ン…ンんッ

ア…ッ

ビクッ

あ…

ビクッ

ーッ！

はぁ
ざまあみろ
はぁ
え…
はっ
はっ
もう俺じゃなきゃ駄目なんだろが

そんな自分を僕は
自分勝手だ、と思った

その日から
僕達は

ドサ

かっちゃん
かっちゃん

ちゃ

声…我慢
して

ちゃ!!

…ッ

毎日訓練が終わると
体育館に残って
セックスした

ン…ッ

ズッ

…ッ

ズチュッ

〜ッ!!

ビクッ

ビクッ

ズッ

足りなければ
皆が寝静まる頃
僕の部屋で
続きをした

来い、デク
グイッ
かっちゃん…！
ちゅ
ちゅッ
ンッ
お互い何も言わなかった

ズプッ
パン
…シッ
ハ…ッ
ハ…ッ
ハ…ッ
ハ
ビクッ
ズプッ
…ア
ビクッ
ーッ!!
ハッ
その日は
雨が降っていた
ザマッ
ちゅ
イラ
ちゅ
イラ
ザマ
ザマ
なあ
…デク

ちゅ
ちゅ…
僕は何度も優しいキスをした
しつけえ…なあ！
もう誰も来ねえし雨は大ッ嫌いだデク！
ガバッ
はよヤれや！…てめえ俺を舐めてんのか
そんな事ないけど…
かっちゃんする前に話をしようよ僕…
僕は君を大事にしたいんだ
パー
大事に？
どの口が言ってんだ
じゃあなんでいきなり俺に手出したてめえ あぁ？

ゾクッ
それは…君が
抵抗しない理由を言わないのと同じじゃないの？
まただ…これ
…理由がわかんないんだよ
インターンも一緒だったのに…ずっと僕達距離があっただろ
なのに今頃色々手伝ってくれて挙句僕に身体触らせてセックスまでしてる
…なのになんで、
何故、僕の手を跳ね除けるんだ君は
ギュッ
お前が！何言っても解んねえ奴だからだろが
俺がお前に何度本音さらけ出してぶつかったのにスカされてきたか
そんで、ようやく！ようやくだろがなのになんでてめえは…！
…ようやく？僕が、何？

カッ
ッ!!
なぁ、デクてめえ前言ったよなぁ
…俺はてめえと友達なんか絶対に
絶ッ対にならねえからなクソ野郎
この意味わかんねえなら
今すぐ消えろや
あの手
ゴンッ
ギマ

あの手に
触られると
全身が跳ねた

心と身体が
興奮して
血が湧いた

理由が、
嫌悪と逆だと
気づくのに

そう時間は
かからなかった

だから
これ以上

触られたく
なくて
跳ねのけた

「出久が
欲しくて
仕方ない」

そんな
自分が嫌で
閉じ込めた

認めるには　心が拒むから

君が僕の手を
はねのけるのが
嫌だった

本当に
嫌だった

ずっと君を
真正面から
受け止めず

自分の気持ちを
さらけ出さ
なかったのは

本音を話して
君に拒まれたら
生きては
いけないから

なのに君は
信じられない位
僕の近くに
いてくれれて

抑えた
気持ちが
沸騰した

あの瞬間、
君が僕の手を
払った時

僕は君を
逃したくなくて
捕まえた

言葉では必ず　すれ違うから

僕達はあの時　ああするしかなかった　ああするしか、なかったんだ
…ッ
出久

…んだよ
クソデク
僕とかっちゃんは
長い間、何も
言わなかった
ぽろぽろ
零れる涙
パタパタと
天井と
窓を叩く雨
僕らの間に
繰り返す
静かで小さな音
君が
好きだ
好きだったんだ
ずっと
…君が呼んだ
気がして

…で何しに戻って来た

…君と話をしたくて

いや、正確にはどう話していいかわからないし

僕達に話し合いなんて出来る気がしないんだけど

それでも、何も言わないのも嫌だから！…戻って来た

は――…

ゴシ

…言えや

…君は、僕にとって特別なんだ。

何かして失うなら何もしないを選びたい位、特別

つまり、君という存在を失いたくない…が僕の最優先

君の成長や日々の努力はそっと僕だけが感じていたいし

周りを引っ張る言動や心の強さ激しさは、みんなと一緒に一番近くで見ていたい

それが僕の言う友達

でも僕は何より君の事が好きで触りたいし…

心も身体も欲しいから！君も僕が特別であればいいなと思うから！

それを表現するのが恋人であるなら恋人でもありたい

で?!

あ、だだから！

僕にとってさ、友達と恋人ってのは比べるものじゃないんだ

ヒーローとしても切磋琢磨しあえる関係でいたいし

正直をいうと友達・恋人・ヒーロー全部の君が全部欲しい

だからそれぞれの関係をちゃんと高めて、進み切った先で…

そのままの君がずっと僕の隣にいてくれたらいいなと思ってる…君は？

ぎゅっ

俺はてめえとは違ってシンプルだわ

聞きたきゃ来いや

俺は！お前が俺だけのものになって

1番の俺をてめえがいつも世界で1番欲しがったらいいって思ってる

友達だの恋人だの、

他に代わりがいるかもしれねえような関係に収まるんは全部お断りだ

なるほど…
なんか色々を腑に落ちるというか自分を省みるというか…
へな
へな
へな…
やっとわかったかバカタレ

形だけの約束したってどうせ
てめえは自分の運命、都合、最優先で生きてくんだろォ？
誤魔化したキスとか気遣いとか俺にはいらねンだよ
滅茶苦茶なてめえもひっくるめて全部漏れなく完璧に受け止めたるから
半端しねえで全部見せろや

なぁ緑谷出久

ン……ッ

ッ……デクッ

ズッ

ズッ

ズチュッ

ビクッ

ビクッ

ドサッ

?!

話し合いは下手だけど

君がどうして欲しいかどう動きたいか

戦闘とかセックスなら何も言わなくてもわかるんだ

生意気

…ッ
ん
…アッ
ん…
アッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ビクッ
ビクッ
デクッ
かっちゃん
はっ
はっ
はっ
はぁ
ちゃんと…ッ
声出してくれて
…嬉しいッ
てめえの
そういうのがッ
やなんだよ
いちいち…ン
はあッ
ズチュッ
パンッ
ビクッ
…ア
ーッ
…ッ

…で
どうすんだ？
どうするって…
いつまでも体育館とか
図書室とかうぜえし
てめえのだせえ
部屋ばっかでヤるって
訳にもいかねえだろ
え？
君の部屋いって
いいってこと？
ガバッ
来ねえなら
別にいいわ
いやいや行く！
いくよ、かっちゃん

んだよ
あいや…
君の身体が綺麗で見惚れたというか大事にしたいなって
散々好き勝手してるやつの言う台詞か、それ
はぁ…
傷とか！ついて欲しくないんだよいや君ならなんだって素敵だけど
それと！君がフルネームだけど僕の名前呼んでくれたの小さな頃以来で…セックス出来たのもよかったけど
そんな時も来るんだなあって嬉しくなった
…それ以外にも色々てめえには言いたい事がある

ええ…僕何かした？

そういうんじゃねえわ！俺はなぁデ…

…いや今はいい

これはこの先訪れる全面戦争で

いつか上手く言える時にちゃんと

てめえに話すから聞ける範囲で聞けや

うん

僕のせいで君が傷つき
僕達が離れ離れに
なってしまう

その、ほんの少し
前の話

ノットイコール
NOT≠EQAL

END

読んで頂きありがとうございました。
久しぶりに出勝だけ・恋愛事だけの
全面戦争前時間軸の出勝を描きました。

お互いを見ながら彼らが彼ららしく
ズレたりすれ違ったりぶつかったりしながらも
お互いが大好きな出勝を描くのが大好きです。

ノットイコール

NOT≠EQAL

発行日：2024年3月17日
発　行：GiftKuchen
著　者：シトリ

MAIL:gk.sitri@gmail.com
pixivID=3200050/Ｘ＝giftkuchen_str
印刷：あかつき印刷

この本は同人誌です。
オークション禁/無断転載(アップロード含)禁/関係者禁
不要の際は中古同人誌ショップかごみ箱へ

NOT≠EQUAL

2024.03 GiftKuchen Sitri